

高齢化社会を迎え、「看取り」という用語が頻繁に用いられるようになった。この「看取り」という用語には的確な英語の訳が無いとのことである。個人主義の発達した社会と「縁」「絆」を重んじる社会の相違かもしれない。

欧米諸国においては、看取られる側が主役である。しかし、日本においては、どちらかと言うと看取る側の思いが先行する。

尊敬する老師の言葉である。「人は、病気で死ぬのではない。人は、寿命で死を迎えるのです」・・・と。この「寿命」にも個々に長短があり、濃淡があり、与えられた現実を理解し、受け止めることは至難の業である。

98歳のお婆さんが肺炎になった。抗生剤の点滴を拒否された。いわく、「私は、こんなにも長生きした。点滴は止めてください」と言い切った。やむなく、内服の抗生剤を用いた。お婆さんの気力が勝り、肺炎は治癒。お婆さん、携帯電話を使いこなしている。近々、スマホに切り替えるのでは。

98歳、経管栄養。寝たきり。コミュニケーションがとれない。しかし、取り巻きの家族は積極的な治療を望んでいる。様態の悪化の際は、総合病院への転院を希望している。コミュニケーションが完全に断たれた病態の延命には課題が残る。

極端な事例を示したが、人の「寿命」に関する話題が、元気な時に、各家庭のティータイムに、気楽に話し合われることにより、より良い生き方の話題につながるのではないかと考える。

# タイムタイム

## 看取り

石川 清司



高齢化社会を迎え「看取り」という用語が頻繁に用いられるようになった。「看取り」という用語には的確な英語の訳が無いことである。個人主義の発達した社会と異なり「絆」を重んじる社会の相違かもしれない。欧米諸国においては看取られる側が主役である。しかし日本においてはどちらかと言うと看取る側の思いが先行する。

尊敬する老師の言葉である。「人は病気で死ぬのではない。人は壽命で死を迎えるのです」…と。この壽命にも個々に長短があり、濃淡があり、与えられた現象を理解し、受け止めることは至難の業である。

98歳のおばあさんが肺炎になった。抗生剤の点滴を拒否した。いわく「私は、こんなにも長生きした。点滴は止めなさい」と言い切った。やむなく内服の抗生剤を用いた。肺炎は治癒。おばあさん、携帯電話を使いこなしている。近々、スマホに切り替えるのは、と、思っほんだ。

98歳、看護長兼。専ら語り。コミュニケーションがとれない。しかし取り巻きの家族は積極的な治療を望んでいる。身体は悪化の時は、総合病院への転院を希望している。

極端な事例を示したが、人の「壽命」に関する話題が、正統な時に、各家庭のタイムタイムに、感傷に語らわれることにより、より良い生き方の話題につながるのではないかと考える今日の頃である。

(名護市、介護老人保健施設「おけおの里」施設長、69歳)